

巻頭言「会長に再任されて」

栗原 考次

2年前に日本分類学会の会長という重職に選出していただきましたが、引き続き担当させていただくことになりました。微力ではありますが、日本分類学会の発展のために尽力したいと考えておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

先日、科学技術振興機構や毎日新聞の調査で、「この十数年間で大学などの自然科学系の研究者数は増えたものの、主要学会の会員数は大幅に減少し、中には3割以上減っている学会もあり、会員が減った学会の割合も調査対象の約7割に達した。」との報道がありました。「学会離れ」の背景には、所属する学会数を減らす研究者が増えているなど種々の要因があると思いますが、現在注目されている人工知能学会などの分野は増加しています。本学会の状況ですが、会員数はほぼ横ばい状態で、定常的に新会員は確保できていますが、世代交代の影響もあり、残念ながら最近では退会者の人数も増えています。研究仲間をふやすための会員数増加は本学会の喫緊の課題であり、より魅力的な学会にするために、本学会の事業を4つの分類に基づき会員への寄与の視点から考えたいと思います。

(1) 学術的会合による研究成果発表の場の提供及び表彰

(1-1) 海外の学術的会合

本学会が創設時から参画している IFCS

(International Federation of Classification Society) は、IFCS-2017 を2017年8月に東海大学高輪キャンパスで開催しました。IFCS-2019 は2019年8月にテッサロニキ(ギリシャ)で開催され、本学会から招待セッションの企画も予定しています。IFCS-2021 はポルト(ポルトガル)で開催されることが決まっています。IFCS では、若手研究者の大会参加旅費を支援する Chikio Hayashi Award を始め、主に若手研究者を対象に種々の Award の制度がありますので、若手の会員の皆様を中心に積極的に応募していただければと思います。

2005年からドイツ分類学会(GfKI: German Classification Society)と共同で開催している日独分

<目次>

・巻頭言「会長に再任されて」	1
・John C. Gower 先生を偲んで	2
・役員改選	4
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	4
セミナー開催報告	5
シンポジウム開催報告	6
シンポジウム開催案内	7
・学会賞について	
日本分類学会2018年度学会賞選考理由について	7
学会賞受賞者より	8
・日本分類学会フェロー授与について	
日本分類学会2018年度フェロー授与選考理由について	10
・学会議事録等	
2019年度総会議事録	11
評議員会議事録(運営委員会議事録)	12
幹事会議事録	22
・事務局から	24

類シンポジウム(JGSC)は、2017年8月の第6回シンポジウムの品川開催に引き続き、2018年7月に第7回をドルトムント(ドイツ)で開催しました。2020年には第8回を日本で開催することを予定しています。

European Conference on Data Analysis (ECDA) は、2018年7月に ECDA2018 をパーダーボルン(ドイツ)、ECDA2019 は2019年3月にパイロイト(ドイツ)で主催するとともに企画セッションなどを担当しました。ECDA2020 は、ナポリ(イタリア)で開催される予定です。

(1-2) 国内の学術的会合

日本分類学会大会、シンポジウムの開催及び統計関連学会連合大会の主催をしています。大会及びシンポジウムは、6月に大会(主に首都圏)、12月にシンポジウム(主に地方)で開催し、2019年度は6月に東京で大会を開催し、12月に小倉でシンポジウムを開催します。2018年度から各大会、シンポジウムにおいて

学生発表セッションによる優秀学生発表賞を授与しています。また、統計関連学会連合大会は9月頃開催し、若手研究者を対象としたコンペティションセッションがあり、優秀報告賞を授与しています。

(2) 機関誌や post conference proceeding による研究成果発表の場の提供

2012年から和文誌「データ分析の理論と応用」を発売しています。欧文誌は、2007年からドイツ分類学会及びイタリア分類学会と共同で、「Advances in Data Analysis and Classification」(ADAC) を Springer 社から年4回刊行しています。また、2018年から、統計関連学会連合の official journal として Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) が刊行され、本学会も協力しています。

また、IFCS や JGSC の Post conference proceedings は、Studies in Classification, Data Analysis, and Knowledge Organization として Springer から発売されています。また、ECDA の大会後の Full paper は、Advances in Data Analysis and Classification の Special Issue 等として発売されています。

本学会では、2014年度からこれらの研究活動を通じて「データの科学としての分類やそのデータ分析の分野における優れた研究業績」を挙げられた方に、学会賞として貢献賞、論文賞、奨励賞の授与を行っています。また、「分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績のあった者」にフェローの称号をこれまで13名の方々に授与しています。

(3) 最新の教育・研究に関する情報提供など

データ分析セミナーでは、最近注目されているホットなテーマについて、本学会員が分かり易く解説します。また、データ分析セミナーの回数を増加し、新たな分野における研究シーズの生成及び会員の増加を推進しています。さらに、「会員数増加や若手研究者の参加」を実現するために、学生会員の会員優遇による入会キャンペーンを開始し、各種学術的会合への参加を促します。その他、会報、ウェブページ、メールニュース及び Facebook 等を利用した広報活動を通じて最新の情報を提供しています。

(4) その他

本学会では、前述のような多くの活動を行っているにもかかわらず、事務局や庶務を担当する若い研究者に多大な負担がかかっていました。事務局組織を整備し、事務的な負担を軽減し、若手・中堅の会員が学会運営や研究面でこれまで以上に活躍できるような環境を整えたいと思っています。

近年、超スマート社会 (Society 5.0) に向けてデータ

サイエンスに関する研究・教育の種々の強化が進められています。日本分類学会の「分類」は、設立趣意書にありますように狭義の分類ではなく、あらゆる科学の基礎でありデータサイエンスに大きく関わる広義の分類です。本学会は科学の基礎及びリテラシーである分類の基礎研究を進めると共に、社会のニーズに適應するデータ分析の理論と応用、さらに、データサイエンスに関する学術的展開を図っていきます。日本分類学会では、本学会の特色である海外との研究交流をさらに充実するとともに、新分野・新領域も含めた大会、シンポジウム、データ分析セミナーを開催し、新たな研究シーズの生成を目指します。さらに、各種の広報活動等の事業の活性化を図るとともに文系理系問わず、男性女性ともに会員の増加を推進してまいります。皆様には、本学会へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

John C. Gower 先生を偲んで

岩坪 秀一 (大学入試センター名誉教授)

ご長女の Sally Timpson 夫人から Gower 先生訃報のメールが入ったのが5月7日、それを目にしたのが九州旅行から帰京した9日であった。3月13日に誕生祝いのメールを差し上げたばかりで、その返信メールからはご家族と誕生祝いを楽しんだ元気なご様子がかがわれただけに急逝に驚かざるを得なかった。Timpson 夫人によれば急に具合が悪くなって入院、手術不可能の肺癌が見つかり4週間入院ということになったが、最後の1週間は本人の強い希望で自宅に戻り、7日の朝安らかに息を引き取られたとのこと。享年89歳であった。

John C. Gower 先生は1930年3月13日ロンドンで誕生。Cambridge 大学で数学を学び、Manchester 大学で数理統計学の Diploma を取得、1955年 Rothamsted Experimental Station (R.A.Fisher による近代統計学発祥の地。以下ロザムステッド研究所) に入所、1990年3月同所を定年退職された。その後、Leiden 大学(オランダ)をはじめヨーロッパ各地の大学、研究機関で研究生生活を送ったのち、1994年 Open University 統計部門の教授に就任、17年間の長きに渡り研究を続けられた。同大学名誉教授、国際分類学会会長、そして英国王立統計協会、国際計量生物学会等における要職を歴任された。

Gower 先生は、研究の当初から推測統計学からは距離を置いておられた。これまでの生物統計関連データの豊富な分析経験に基づき、得意の線型代数学を縦横無尽に駆使されて多変量データに潜在している情報を

探り出すことに努められた。その姿勢は故林知己夫先生と一脈相通ずるところがある。先生のご研究はD.J. Hand 博士との共著 ‘Biplots’ (Chapman&Hall,1994)と G.B.Dijksterhuis 博士との共著 ‘Procrustes Problems’ (Oxford University Press,2004)に体系的にまとめられている。前者は、対象とその測定項目を2次元座標空間に同時布置して多変量データの持つ情報を集約しようとするものである。(‘Bi’は、対象と測定項目の‘2’種の意味であり、2次元の‘2’ではない。)方法によってはユークリッド距離とは別の距離が採用されており、座標軸も非線形なものを選ばれるなど、分析手法に対応した Biplot が提示されている。後者は、元々因子分析法で考え出されたものであるが、その一般化、体系化を計り、多方面の多変量データ解析に資することを旨としたものである。また、Leverrier-Faddeev アルゴリズムの重要性に気づかれ、その普及にも力を注いでおられた。晩年は Canonical Analysis の著述に専心されていた。

個人的なことで恐縮ながら Gower 先生との出会いについて触れさせていただきたい。私は1968年に電気試験所(今の産業技術総合研究所)に入所、林の数量化法を知ってその研究に没頭したが、その過程で Gower 先生が考え出された主座標分析法との出会いもあった。また Biometrics 誌に載った ‘A general coefficient of similarity and some of its properties(1971)’ を読んで、対象間の類似度あるいは非類似度を要素とする行列が非負正定値ならば、対象をユークリッド空間の点表現に持つことができることを知って目から鱗の落ちる思いをした。大学入試センターに移って在外研究の機会が得られた時に迷わず Gower 先生の居られたロザムステッド研究所に決めた。幸い受け入れられて9ヶ月余りを過ごした。当時先生は、引退した Nelder 博士のあとを継いで Biomathematics 部門の部長に就任されたばかりであった。マネージメントで極めて多忙であられたが、上記論文のテーマを掘り下げた先生との共同研究の一部を、のちにヴェルサイユの国際研究集会 Data Analysis and Informatics で発表することが出来た。英国滞在中は先生とご家族から実に暖かいもてなしをいただいたことが忘れられない。大学入試センターに戻ってからは、私自身の研究の重点が大学入試や学力関連に移っていき、先生との直接の研究交流は少なくなっていくを得なかったが、それでも英国の大学入試機関に出張する度ごとに先生とご家族にお目にかかることが出来た。先生ご自身も1987年のISI大会(東京)以来何度か来日されて、その度に旧交を温めさせていただくことが出来た。

最後に Gower 先生の余り知られていない一面をご紹介したい。先生は私の好きな ‘野生蘭’ 観察の愛好家であった。戦時中ドイツ空軍のロンドン空襲を避けて、先生は郊外の Empshott に疎開されていた。そのすぐ近くに野鳥を主とした自然観察で世界的に知られている Gilbert White (18世紀の牧師で博物学者)が住んだ Selborne があって、小学生の先生はよくその森の中を歩き回ったそうである。その時に蘭の花との出会いがあったという。2001年7月に来日されたとき、先生を長野県の白駒池にご案内したことがあったが、池に向かって薄暗い森の中を歩いていた時に、先生が ‘Orchid!’ と指差した先を見ると小さなイチヨウランが咲いていた。こんな暗い中に咲くこんな小さな花を背の高い大男の先生がよく見つけたものだとびっくりしたことを思い出す。その後もメールでフランスやスペインで珍しい野生蘭を見つけたことを知らせてくださったし、こちらからも八ヶ岳山麓で見つけたホテイランの画像をメールでお送りしたりした。2013年5月下旬、私たち夫婦は久々に英国を訪れて先生ご夫妻にお目にかかることが出来た。この時も蘭の群生地にわざわざ案内してくださった。霧に包まれた広い緑の草原の一部に、日本のニョホウチドリに当たる鮮やかな赤紫色の蘭が群生していて感激したものであった。これが Gower 先生にお目にかかれた最後となった。



た。

Gower 先生はご家族の誰からも愛されており、特に鴛鴦夫婦の喩えがぴったりの Janet 夫人は常に先生を支えておられた。夫人が今どのような気持ちでおられるのかを思うと心が痛む。先生は研究上に限らず誰にでも親切で多くの人々から慕われていた。ご本人も「世

界中に友人が居て自分は実に幸せ者だ」と述懐されていた。沢山の人々から愛されて、そして最後の最後まで研究に打ち込んでおられた Gower 先生は、本当に幸せな一生を送られたと言えるのではないだろうか。

先生の亡くなる2日前、我々夫婦は南九州のある森の中で偶然キンランが一株だけ咲いているのを見つけた。後にも先にも全く見つけることが出来なかったのので後日、「キンランの姿を借りて Gower 先生はお別れを言いに来られたのではないだろうか」と家内と語り合ったものである。合掌。

*International Statistical Review(2015),83,3 掲載の Sir David R. Cox ‘Conversation with John C. Gower’ には、先生の研究経歴等が詳細に紹介されている。会員諸氏の一読をお勧めしたい。

役員改選

2019・2020 年度の役員改選結果報告

会則に従い、2019・2020 年度の役員改選を行いました。2名の選挙管理委員（土田潤（東京理科大学）・山田実俊（東海大学））により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は2019年4月1日から2021年3月31日までです。

2019・2020 年度役員

会長（敬称略）

栗原 考次（岡山大学）

監事（2名：50音順、敬称略）

今泉 忠（多摩大学）

林 文（東洋英和女学院大学）

評議員（20名：50音順、敬称略）

足立 浩平（大阪大学）

石岡 文生（岡山大学）

大津 起夫（大学入試センター）

岡太 彬訓（多摩大学）

小田 牧子（防衛医科大学校）

狩野 裕（大阪大学）

久保田 貴文（多摩大学）

酒折 文武（中央大学）

佐藤 美佳（筑波大学）

清水 信夫（統計数理研究所）

竹内 光悦（実践女子大学）

富田 誠（横浜市立）

豊田 裕貴（法政大学）

中山 厚穂（首都大学東京）

馬場 康維（統計数理研究所）

林 篤裕（名古屋工業大学）

水田 正弘（北海道大学）

宿久 洋（同志社大学）

山口 和範（立教大学）

山本 義郎（東海大学）

また、評議員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

2019・2020 年度 幹事長

富田 誠（横浜市立大学）

2019・2020 年度 幹事

石岡 文生（庶務、岡山大学）

久保田 貴文（庶務、多摩大学）

山本 義郎（庶務、東海大学）

小田 牧子（会計、防衛医科大学校）

横山 暁（広報、青山学院大学）

竹内 光悦（企画、実践女子大学）

豊田 裕貴（企画、法政大学）

林 邦好（企画、聖路加国際大学）

佐藤 美佳（渉外、筑波大学）

宿久 洋（渉外、同志社大学）

酒折 文武（渉外（国際学会活動）、中央大学）

中山 厚穂（渉外（国際学会活動）、首都大学東京）

水田 正弘（渉外（国際学会活動）、北海道大学）

吉野 諒三（ジャーナル、統計数理研究所）

大津 起夫（ジャーナル、大学入試センター）

岡太 彬訓（IFCS、多摩大学）

栗原 考次（IFCS、岡山大学）

山本 義郎（IFCS、東海大学）

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会開催報告

日本分類学会第38回大会開催報告

大会実行委員長 竹内 光悦（実践女子大学）

日本分類学会第38回大会を2019年6月15日（土）-16日（日）に東京都渋谷、実践女子大学渋谷キャンパスで開催いたしました。2日間で延べ人数約60名に参加いただき、活発な研究発表、情報交換ができたと思います。今回は受賞特別講演としてトロント大の西里静彦先生に、また国際的なデータサイエンス教育の動きについて、横浜市立大学の小野陽子先生にご講演いただきました。また11件の一般講演も行われ、大変、有益な大会になったと感じています。大会実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに、感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。
(下線が発表者です。)

学生発表セッション (6月15日 13:15~14:35)

座長：富田 誠 (横浜市立大学)

・無視不可能な欠損値を含むデータに対する混合確率的主成分分析

森岡優輝 (同志社大学)，谷岡健資 (和歌山県立医科大学)，宿久洋 (同志社大学)

・量質混在データのための GSCA を用いたファジークラスタリング

高澤一平 (同志社大学)，谷岡健資 (和歌山県立医科大学)，宿久洋 (同志社大学)

・一般化加法モデルを用いたストライクゾーンの歪みの違いによるピッチャーとキャッチャーの分類

今田一希 (東海大学大学院)，酒折文武 (中央大学)，山本義郎 (東海大学)

・因子得点の不定性を利用したデータの最適変換
山下直人 (大阪大学大学院)

特別セッション (6月15日 14:45~15:30)

座長：竹内 光悦 (実践女子大学)

・特別講演「WiDS Tokyo@YCU を通じて考えるデータサイエンス」

小野陽子 (横浜市立大学)

一般セッション1 (6月15日 15:40~16:30)

座長：宿久 洋 (同志社大学)

・スパース母数因子分析

宇野光平 (ベネッセ教育総合研究所)

・Gini 係数を目的関数とした直交回転法について
土田潤 (東京理科大学)，宿久洋 (同志社大学)

一般セッション2 (6月16日 9:45~10:35)

座長：久保田 貴文 (多摩大学)

・多項ロジットモデルを用いた統計的マッチング手法の開発及びその改善方法の検討

高部勲 (総務省統計局)

・中国山東省 51ヶ村の調査に基づいた中国農村部における環境意識の特徴分析

陳艶艶 (福岡工業大学)，鄭躍軍 (同志社大学)，吉野諒三 (統計数理研究所)，林文 (東洋英和女学院大学)，角田弘子 (日本ウェルネススポーツ大学)

特別セッション (6月16日 10:45~11:45)

座長：栗原 考次 (岡山大学)

・受賞特別講演「分割表空間の展開：2倍多次元空間の理論とグラフ」

西里静彦 (トロント大学)

一般セッション3 (6月16日 13:00~14:15)

座長：山本 義郎 (東海大学)

・質問紙付き買物ウェブサイト閲覧履歴に対する補助変数を用いた零過剰ポアソン NMF の応用

阿部寛康 (京都大学)

・大学における図書利用状況の視覚化と時系列クラスタリング

工藤春哉 (多摩大学)，久保田貴文 (多摩大学)

・イノベーション人材発掘・育成支援サービスのためのモデルイノベータの分類について

久保田貴文 (多摩大学)，志賀敏宏 (多摩大学)，鹿田實 (研究産業・産業技術振興協会)，小林一雄 (研究産業・産業技術振興協会)

○セミナー開催報告

・2018年度データ分析セミナー「RでのWebスクレイピング」ーオープンデータ，Web情報の活用ー
2019年3月4日(月)に東海大学高輪キャンパスにて2018年度データ分析セミナーが開催されました。日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数(計26人)ご参加いただきました。セミナーは以下の通り、午前の部、午後の部の二部構成でした。

午前の部：「R入門」

セミナー担当：山本義郎 (東海大学)

午前の部では山本義郎講師 (東海大学) による「R入門」で、RStudio を用いてデータ全体や指定した条件を満たす一部のデータの集計や可視化ができるようになり、午後の部のための基礎的なRの利用方法を理解することを目的として解説がなされました。

午後の部：「RでのWebスクレイピングーオープンデータ，Web情報の活用ー」

セミナー担当：秋元良友 (横浜市立大学，Y WEB SYSTEM)

Webにある情報を自動化など効率よく収集する方法について、前半ではe-Statを始めとする各種データ提供サービスのAPIを使用したデータの取得方法やデータの形式の解説を行い、実際に参加者がデータを取得し集計や作図を行いました。後半ではWebサイトに掲載されているデータについてRのパッケージを利用した取得方法や各種Webブラウザの開発ツールを活用しWebページの構造や通信を基にしたスクレイピング方法を実際にRのプログラムを交えて解説・演習を行いました。

・日本分類学会・法政大学大学院IM総研共催セミナー「2019 Rによるマーケティングデータ分析」
セミナー担当：豊田裕貴（法政大学経営大学院）

2019年3月2日（土）13:00～16:00「Rによるマーケティングデータ分析 第1回：ゼロからのR入門（売上データを分析する）」、3月9日（土）13:00～16:00「Rによるマーケティングデータ分析 第2回：購買履歴データの分析入門（レコメンドと購買予測）」の計2つのセミナーが法政大学経営大学院新一口坂校舎（市ヶ谷）で開催されました。

Rによるマーケティングデータの分析方法を、売上データや購買履歴データを事例に入門セミナーとして実施いたしました。日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数ご参加いただき、計66人の皆様のご参加をいただきました。

・2019年度 第1回データ分析セミナー

2019年5月18日（土）に東海大学高輪キャンパスにて2019年度第1回データ分析セミナーが開催されました。日本分類学会の会員のみならず非会員の方にも多数（31人）ご参加いただきました。セミナーは以下の通り、午前の部、午後の部の二部構成でした。

午前の部：「Rでの地理情報の可視化」
セミナー担当：久保田貴文（多摩大学）

Rとdplyrについて初歩的な入門講座からはじまり、e-StatのAPIを用いたデータの収集や、都道府県別・市区町村別のコロプレスマップの作成について実例を示しながら解説がなされました。さらに、参加者自ら持参したPCにて演習が行われました。

午後の部：「空間データにおけるホットスポットの検出とその実践」
セミナー担当：石岡文生（岡山大学）

「興味のある対象が、ある特定のエリアに集中（集積）しているかどうか」を統計的根拠に基づいて決定する（ホットスポットの検出）方法について解説するとともに、Rパッケージ等の関連したソフトウェアによる演習を行いました。

○シンポジウム開催報告

2018年度日本分類学会シンポジウム開催報告

大会実行委員長 山本 義郎（実践女子大学）

2018年度日本分類学会シンポジウムは、2018年11月24日（土）・25日（日）沖縄県青年会館にて開催されました。本シンポジウムは2日間にわたって、13件

の学生発表セッションにおける講演、12件の一般講演が行われ、47名の参加者により活発な討論が行われました。実行委員長として発表者の皆様、参加者の皆様にご挨拶申し上げます。

本シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション1（11月24日 12:00～13:45）

座長：山本 義郎（東海大学）

- ・境界制約付き行列補完アルゴリズム
森岡優輝（同志社大学）、谷岡健資（和歌山県立医科大学）、宿久洋（同志社大学）
- ・因果探索のためのテンソルLINGAM
高澤一平（同志社大学）、谷岡健資（和歌山県立医科大学）、宿久洋（同志社大学）
- ・負荷量の下限を制約するスパース行列因子分析
山本勇氣（大阪大学）、足立浩平（大阪大学）
- ・Adaptive Lassoと二十頑健推定法を用いた平均処置効果の推定
本江渡（東京理科大学）、安藤宗司（東京理科大学）、寒水孝司（東京理科大学）
- ・多項分布における自然母数の事後平均
高見遼太（東京理科大学）、柳本武美（統計数理研究所）、田畑耕治（東京理科大学）
- ・文型に基づいた著者識別
黄善玉（同志社大学）、金明哲（同志社大学）

学生発表セッション2（11月24日 14:00～15:30）

座長：岡崎 威生（琉球大学）

- ・多重対応分析における負荷行列の斜交回転法
牧野直道（大阪大学）
- ・Tucker3とParafacの中間モデルのスパース同定
中島文（大阪大学）、足立浩平（大阪大学）
- ・スパース主成分分析を伴う冗長性分析について
山岸勇輝（同志社大学）、宿久洋（同志社大学）
- ・共分散行列の推定によるロバスト正準相関分析について
水谷成吾（同志社大学）、宿久洋（同志社大学）
- ・潜在変数とリンク関数を用いた量質混在時における因果構造推定法
山佳真子（同志社大学）、宿久洋（同志社大学）
- ・カウントデータ分析のための動的無限関係モデルの提案
後藤智紀（同志社大学）、宿久洋（同志社大学）

一般セッション1（11月24日 15:50～17:30）

座長：石岡 文生 (岡山大学)

- ・複数特徴量を用いた菊池寛代表問題の分類分析
柳輝佳 (同志社大学), 金明哲 (同志社大学)
- ・位相的データ解析によるデータの可視化
北西由武 (岡山大学), 石岡文生 (岡山大学), 飯塚誠也 (岡山大学), 栗原考次 (岡山大学)
- ・戦前・戦後の日本小節の分類とその特徴分析
李広徹 (同志社大学), 金明哲 (同志社大学)
- ・臨床試験におけるクエリ発行に関する適切性の評価：シミュレーションに基づく検討
北山恵 (和歌山県立医科大学), 谷岡健資 (和歌山県立医科大学), 下川敏雄 (和歌山県立医科大学)
- ・テトラコルドの使用頻度による日本各地の音楽性の分類
河瀬彰宏 (同志社大学)

一般セッション2 (11月25日 9:00~10:20)

座長：酒折 文武 (中央大学)

- ・離散性と凝集性に着目した類似尺度に対する階層型クラスタリング
中野光徳 (琉球大学), 岡崎威生 (琉球大学)
- ・文末表現に着目した文学作品の分類
尾城奈緒子 (同志社大学), 金明哲 (同志社大学)
- ・トピックモデルに基づく宇野浩二の創作時期についての検討
劉雪琴 (同志社大学), 金明哲 (同志社大学)
- ・順序カテゴリ正方分割表におけるロジット変換に基づく拡張非対称モデルと対称性の分解
木下迅 (東京理科大学), 藤澤健吾 (東京理科大学), 田畑耕治 (東京理科大学)

一般セッション3 (11月25日 10:30~11:30)

座長：富田 誠 (東京医科歯科大学)

- ・スポーツ活動に対するパーソナリティによる分類
酒折文武 (中央大学), 加藤俊一 (中央大学), 小笠原悦子 (順天堂大学), 三倉茜 (順天堂大学), 北川純也 (順天堂大学), 鳥羽政成 (中央大学)
- ・プロ野球における年齢曲線の分類
今田一希 (東海大学), 山本義郎 (東海大学)
- ・Gini Index をペナルティ関数とした Tucker model について
土田潤 (東京理科大学), 宿久洋 (同志社大学)

○シンポジウム開催案内

2019年度日本分類学会シンポジウム開催について
実行委員長 富田 誠 (横浜市立大学)

2019年度 日本分類学会シンポジウムを、2019年12月14日(土)～15日(日)に北九州国際会議場にて開催することとなりました。本学会では昨年よりシンポジウムを単独で開催しており、前回の沖縄での開催は多くの参加を賜り盛会でした。今回も多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております。詳しくは<http://bunrui.jp/sympo/>をご覧ください。

●場所

北九州国際会議場
〒802-0001
福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目9-30
<https://convention-a.jp/kokusai-kaigi/>

●スケジュール

発表申込締切：2019年10月23日(水)
予稿集原稿提出締切：2019年11月13日(水)
懇親会申込締切：2019年11月21日(火)
早期納入割引適用期限：2019年11月27日(水)
大会：2019年12月14日(土)・15日(日)
(14日(土)に懇親会を予定しております)

ほか参加費などについて<http://bunrui.jp/sympo/>をご覧ください。

シンポジウムについてのお問い合わせは、下記までお願い致します。

2019年度 日本分類学会シンポジウム実行委員会
sympo2019@bunrui.jp

学会賞について

○日本分類学会2018年度学会賞選考理由について
栗原 考次 (岡山大学)

日本分類学会賞として、「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。この度、日本分類学会賞に関する受賞候補者を選考し、運営委員会で決定し、平成30年度総会におきまして授賞式を行いました。ここでは、各受賞者に関する受賞理由を要約して述べることで、受賞者を祝するとともに皆様の研究促進の一助になればと存じます。

2018年度の受賞者として、貢献賞は馬場康維会員、論文賞は安藤宗治会員・田畑耕治会員、奨励賞は宇野光平会員が選ばれました。以下、簡単に選考理由について述べます。

日本分類学会貢献賞

馬場康維 会員 (統計数理研究所)

主な選考理由

馬場会員は、広く多変量解析の諸方法の研究をされてきました。その中でも特筆されるべき研究の一つはグラフィカル分析に関する研究であり、1986年に *Behaviormetrika* 誌 No.19, 1987年には *Computational Statistics & Data Analysis* 誌 Vol. 5に優れた論文を公刊されています。また、主成分分析 (PCA) や数量化法などの研究も推進され、その成果の一部を、編著書「記述的多変量解析法」(1994年, 日科技連出版) にまとめられています。本書は、PCA・数量化法の基本原理を明解に論じた高著と評価されています。また、time dependent な経時データのための PCA の研究なども推進されています。さらに、マイクロデータによる分析の方法論の研究にも取り組まれこの分野では、数多くの国際ワークショップを開催されています。分類学に関わる多変量解析の国際的な編著書も数多く、代表的なものとして、Springer-Verlag から出版された「Data Science, Classification, and Related Methods」(1998年) や「Measurement and Multivariate Analysis」(2002年) などがあります。

本学会の運営面では、同会員は、会長を2009~2013年度の間、2期に渡って務められことをはじめ、幹事長を1993~1995年に、そして、幹事・運営委員を長年にわたって務められています。また、分類学に関わる数多く国際会議の企画・運営をされ、特に、日本で初めてで、それも、震災1年2か月後の神戸開催となった国際分類学会連合の大会 IFCS1996 (神戸) の実行組織委員会副委員長・国内大会プログラム委員を務められたことは特筆されます。さらに、2010年には日独、2011・2012年には日伊の分類学会のプログラム委員を務められています。

以上のように、研究・学会運営の両面で、国内外において、データ科学としての分類学に多大な貢献をされたことは、まさに貢献賞に相応しいと考えられ、馬場会員を貢献賞の受賞候補者として提案します。

日本分類学会論文賞

安藤宗治 会員 (東京理科大学)

田畑耕治 会員 (東京理科大学)

主な選考理由

安藤会員・田畑会員が、富澤貞男氏 (非会員) とともに本学会の欧文誌 *Advances in Data Analysis and Classification* (ADAC) に公刊された論文「Ando, S., Tahata, K., & Tomizawa, S. (2018). A bivariate index vector for measuring departure from double symmetry in square contingency tables」(h

<https://doi.org/10.1007/s11634-018-0320-7>, pp. 1-11) が対象であります。

行と列が同じ分類からなる正方分割表の解析では、分類間の独立性に代わり、対称性や点対称性のモデルが用いられますが、それら両者の構造を持つのが二重対称モデルです。本論文では、二重対称モデルの適合度の評価に利用できる指標として、対称モデルからの隔たりの程度と点対称モデルからの隔たりの程度を同時に分析可能なベクトル尺度が提案されています。さらに、ベクトル尺度の信頼領域が理論的に導出され、本論文で得られた結果は、理論および実用の観点から、分類のための数理統計学に大きく寄与するものであります。以上より、安藤会員と田畑会員を論文賞の受賞候補者として提案します。

日本分類学会奨励賞

宇野光平 会員 (大阪大学)

主な選考理由

同会員は、2015年の日本分類学会第33回大会において、「行列モデル因子分析における因子得点の不定性の解消と因子得点のクラスター化」と題して、(回転にかわって) 因子得点の不定性を利用して、解釈のしやすい因子得点を求めるという新奇な手法を提案し、IFCS2017では、「Model based clustering for tensor-valued data structures」と題し、確率モデル分布を用いてテンソルデータをクラスタリングする手法を提案しています。また、2017年の日本分類学会第36回大会で「探索的共分散構造分析の混合モデル化」と題して、探索的共分散構造分析を未知の複数群に対して適用できるよう拡張する方法を提案しています。さらに、国際学術誌 *Computational Statistics and Data Analysis* への論文の公刊を始め、データ科学としての分類学に関わる種々のテーマの研究発表を、国内外の諸学会で発表しています。以上より、今後の発展や本学会欧文誌への投稿も期待され、同会員を奨励賞の受賞候補者として提案します。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

馬場康維 (統計数理研究所 名誉教授)

この度は栄誉ある日本分類学会貢献賞を授与され、光栄に存じます。日本分類学会には設立の頃からの会員で研究者としてあるいは役員として、関わってきました。少々面はゆいと同時にこれからも学術と運営の両面から学会に少しでも貢献できればと、心を新たにしております。

日本分類学会は1981年に「分類の理論と応用に関する研究会」として発足しました。初代会長の林知己夫先生や大隅昇先生から伺ったのは、国際分類学会連合を作ることを目的としているということでした。当初から、国際的な連合体を志向したものだと思えます。今は、日独、日伊ですが、当時は、日仏の交流が盛んでした。第1回が統計数理研究所で1987年、第2回が1992年にMontpellierだったように記憶しています。

はじめてIFCSに参加したのは1989年の第2回大会で、Virginia大学で行われた時です。この大会でトロント大学の西里静彦先生や、ベル研のKruskal先生にはじめてお会いしました。plenary sessionでの私の講演の座長がKruskal先生でした。この大会では、大会主催者のBozdogan（当時准教授）宅に呼ばれました。矢島敬二先生、初代IFCS会長のHans Bochご夫妻と一緒にしました。1994年に在外研究でカナダに行ったときに、西里先生にお世話になりました。また、ベル研のKruskal先生のところで講演をさせていただきました。その後、パリのENST (Ecole Nationale Supérieure des Télécommunications)にLebart教授のホストでしばらく滞在しました。今考えると、国際的な活動の礎となったのは、IFCSの大会に参加したことが出発だったと思います。

この大会以来、第2回大会Edinburgh、第3回Parisと、林知己夫先生のお供で、Council Meetingや夕食会で、外国の主な人たちとの会合にたびたび参加し多くの知り合いができました。日本でIFCS大会を開催するための布石だったと思います。

Edinburgh大会の時に、林知己夫先生を組織委員長にIFCS-1995を神戸で開催することが決まっていたのですが、1995年1月17日に、阪神・淡路大震災が起きました。外国から心配しているという多くのメールが来ましたが、1年後には会場も使えるようになるだろうし、復興の助けにもなるだろうと言うことで、延期して開催に踏み切りました。神戸に貢献できたこともあり、結果的にとても良かったと思います。最近、当時からの顔見知りの外国の研究者の方たちとは国際会議でも合わなくなりましたが、今回のIFCS-2017東京大会で、神戸大会に参加したという往年の若手から、「神戸は良かった」と声をかけられ、当時のことを懐かしく思い出しました。

学会発足時のメンバーは、数理統計、官庁統計、生物分類、医学統計等、バラエティに富んだまさに学際的な研究会でしたが、現在は様変わりしているようです。「分類」は全ての科学の基礎になるものですから、広義の分類の理論と応用に関わる多分野の若手研究者に魅力のあるものにできないかと思っています。



馬場 康維

(ばば やすまさ)

統計数理研究所名誉教授、理学博士（九州大学）、1974年3月東北大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学、1974年4月統計数理研究所研究員、1997年4月統計数理研究所／総合研究大学院大学教授、2008年4月同名誉教授、情報・システム研究機構 特任教授（2010年3月迄）、多摩大学客員教授（2012年3月迄）、統計数理研究所特命教授（2016年3月迄）、（公財）統計情報研究開発センター客員上席研究員

日本分類学会論文賞を受賞して

安藤 宗司（東京理科大学）

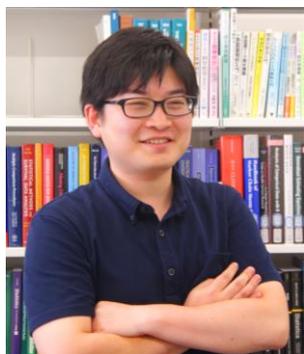
田畑 耕治（東京理科大学）

この度は、日本分類学会論文賞を頂き、大変光栄に思います。これまでご指導ご鞭撻を頂いた諸先生方ならびに本論文の共同研究者であり東京理科大学在学時の指導教官である富澤貞男教授に感謝申し上げます。また、受賞論文の査読をしてくださった3名の専門家をはじめ、賞の選考に関わった先生方にも感謝申し上げます。

本受賞の対象となっている論文「A bivariate index vector for measuring departure from double symmetry in square contingency tables」の主な貢献は、ベクトル型の尺度の提案にあります。本研究は、対称性からの隔たりを測る尺度 (Tomizawa, 1994) をベクトルの第一要素に、点対称性からの隔たりを測る尺度 (Tomizawa et al., 2007) を第二要素としたもので、非常にシンプルなアイデアに基づき二重対称性（対称性と点対称性の両方を満たす構造）からの隔たりを表現したものです。しかし、その発想は大変に面白い結果を導きました。それは、先行研究で提案されている二重対称性からの隔たりを測る尺度では同じ値を示す二つのデータに対して、ベクトル型尺度を用いると全く異なった解釈を得られるということです。実際に、論文内に大変に面白い結果が掲載されています。また、数値的に比較するだけでは、統計学の初学者などには理解が難しいことから、二次元平面上にベクトル型尺度をプロットし、さらに95%信頼領域を図示しました。これにより二つの分割表を比較する際に一目

でその違いがハッキリとわかるようになりました。近年の統計学ブームによって、初学者や他分野の専門家との協働が重要視される現在において、方法論の視覚化は非常に効果的です。本論文が *Advances in Data Analysis and Classification* に掲載され、論文賞を頂いたのも、これらの点が評価されたのではと考えております。

正方分割表解析の分野は、未だ様々な研究課題が残っており、本研究成果を基に、今後も革新的な研究成果を出せるよう日々精進していきたいと思っております。そして、日本分類学会でその研究成果を報告できればと思っておりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。最後に、私に日々のパワーをくれている家族に感謝をして締めくくりたいと思います。この度は本当にありがとうございました。



安藤 宗司
(あんど う しゅうじ)
東京理科大学大学院理工学研究科情報科学専攻
博士課程修了(2016年)。
博士(理学)。

株式会社ACRONET(現
エイツーヘルスケア株式
会社)、ノバルティスフ
ァーマ株式会社を経て、

2017年より東京理科大学工学部情報工学科助教



田畑 耕治
(たはた こうじ)
東京理科大学大学院理工学研究科情報科学専攻 博士
課程修了(2007年)。博士
(理学)。

東京理科大学理工学部情報
科学科 助教、講師を経て、
2018年より同学科准教授。

日本統計学会代議員、応用統計学会評議員等を担当。

日本分類学会奨励賞を受賞して

宇野 光平 (ベネッセ教育総合研究所)

この度は、奨励賞をいただきまして大変光栄に思います。七年間指導していただいた大阪大学の足立浩平先生をはじめ、研究室のみなさま、そして日本分類学会でお会いすることのできた先生方のおかげで、栄えある賞をいただくことができたことに深く感謝申し上げ

げます。奨励賞という、そうそうたる研究者の方々が受賞されてきた賞をいただけることは私にとってこの上ない喜びです。賞の重みに恥じないよう今後さらに努力を重ねる覚悟でおります。

私の研究は行列に基づいた多変量解析、特に因子分析に関する新たなモデルの提案が主になりますが、近年は混合分布によるクラスタリングやテンソル構造をもったデータの解析にも興味を持っております。現在研究しているテーマは既存手法の拡張が主ですが、今後の目標は自分にしかできないような研究をすることです。目標は決して簡単なものではありませんが、挑戦しつづける所存です。

私は2019年3月に博士課程を修了し、2019年4月からベネッセ教育総合研究所に勤務しております。大学から企業へと研究する場所を変えることで、企業が統計学という学問、統計学を学ぶ学生、そして統計学を研究する統計学者に何を期待しているのかを知ることができればと考えております。また、自分を育てていただいた日本分類学会に少しでも貢献できるよう努力する所存ですので、未熟な私ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

宇野 光平



(うの こうへい)

2014年3月 大阪大学人間
科学部 卒業、2016年3月
大阪大学大学院人間科学研
究科 博士前期課程 修了、
2019年3月 大阪大学大学
院人間科学研究科 博士後
期課程 修了、2019年4月
よりベネッセ教育総合研究
所 研究員。

日本分類学会フェロー授与について

○日本分類学会2018年度フェロー授与選考理由について

栗原 考次(岡山大学)

日本分類学会として2016年度よりフェロー授与制度を設置しています。2018年度のフェロー受賞者として、鈴木達三会員(統計数理研究所)にフェローの称号が授与されました。

授与理由

鈴木達三会員は、初代会長の林知己夫氏とともに、数10年にわたり、厳密な統計的標本調査法による実践的

な世論調査や社会調査の調査方法論、および、データ解析、そして特に国際比較調査の展開において、日本では先駆的な業績をあげてこられました。同会員が一人として統計数理研究所で推進された「日本人の国民性調査」と「意識の国際比較」は、後に世界が類似の経年比較調査や国際比較研究を展開する際の模範となっており、この流れは後進の研究者たちに広く伝えられています。林知己夫氏が1990年前後に「データの科学」を国際分類学会等でも議論し始めた時代には、鈴木会員は林氏とともに「日米欧7カ国比較」などの大規模国際比較調査を遂行し、CLA（文化の連鎖的比較）というパラダイムにおいて、「データの科学」を具現化させたと評価されます。こうした業績の一端は、同会員の著書「社会調査と数量化」、「標本抽出の計画と方法」、「統計学特論」、「標本調査法」などにまとめられています。

以上のように、鈴木会員は、調査科学の分野で分類学に多大な貢献をされ、さらに、今後の調査科学を方向づけるものであるため、同会員をフェロー候補として提案します。

学会議事録等

○2019年度総会議事録

開催日時：2019年6月15日(土)、16:30-17:30

会場：実践女子大学渋谷キャンパス創立120周年記念館403教室

■議長の選出

議長として、岡山大学の石岡文生氏が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 2019年度データ分析セミナーについて
山本義郎 庶務幹事より、2019年度データ分析セミナーの開催概要について報告がなされた。
2. ECDA2019について
中山厚穂 渉外(国際学会活動)幹事より、2019年3月にドイツ・バイロイトで開催されたECDA2019について報告がなされた。
3. 2019年度シンポジウムについて
富田誠 幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2019年12月に福岡県北九州市で開催される2019年度日本分類学会シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

4. 各種内規の修正について

富田幹事長より、運営委員会を評議員会、運営委員を評議員と変更したことを受け、内規を改定した旨、報告がなされた。

5. 和文誌について

宿久洋 和文誌編集委員会副委員長より、和文誌第8巻1号の進捗状況について報告がなされた。

6. 学会賞について

馬場康維 学会賞選考委員会委員長より、2019年度学会賞の受賞者について報告がなされた。

7. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 平成30年度事業報告・会計報告について

山本庶務幹事より、平成30年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田牧子 会計幹事より、平成30年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

林文 監事より、決算報告書の内容について、2019年6月6日に会計監査を実施した結果、各事業の収支が適切に処理されている事を確認した旨の報告がなされた。本報告は、事業・会計報告とあわせて一括で承認された。

2. 2019年度事業計画および予算案について

石岡文生 庶務幹事より、2019年度事業計画について、資料に基づき説明がなされた。また、会員増のための新たな試みとして、学生会員入会キャンペーンを実施する旨の提案がなされ、その概要について説明がなされた。小田会計幹事より、2019年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。以上の提案について、原案通り承認された。

3. フェロー候補者について

馬場学会賞選考委員会委員長より、会員からの推薦に基づいて学会賞選考委員会で評議した結果、岩坪秀一氏(早稲田大学)をフェロー候補者として推薦したい旨の提案があり、承認された。

4. その他

その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞・フェロー称号・優秀学生発表賞の授与式を行った。

- [貢献賞] 西里静彦氏 (トロント大学)
[論文賞] 荒井清佳氏 (大学入試センター)
[奨励賞] 岡部格明氏 (同志社大学)
[フェロー称号] 岩坪秀一氏 (早稲田大学)
[優秀学生発表賞] 今田一希氏 (東海大学)

○評議員会議事録 (運営委員会議事録)

・平成 29-30 年度第 19 回運営委員会

開催日時：平成 31 年 3 月 27 日(水), 15:30-16:30

会 場： 東京医科歯科大学 M&D タワー 18 階小会議室 1

出席者： 栗原考次(会長, 岡山大学),
馬場康維(学会賞選考委員会委員長, 統計数理研究所),
水田正弘(渉外幹事, 北海道大学),
山本義郎(幹事長, 東海大学),
吉野諒三(編集委員長, 統計数理研究所)

陪席者： 小田牧子(防衛医科大学校), 富田 誠(東京医科歯科大学)

◆報告事項

1. 役員選挙結果について

富田庶務幹事より, 選挙管理委員(土田潤会員・山田実俊会員)によって1月24日に開票され, 栗原考次会長, 今泉忠監事, 林文監事が信任多数で選出され, 評議員も20名が選出されたことが報告された。なお, 既に会員に郵送にて結果を送付済であることも報告された。

2. 第 38 回大会について

山本幹事長より, 実践女子大学渋谷キャンパスにて, 6月15-16日に開催される予定であること, 既にWebページで参加登録, 講演申込が開始されていることが報告された。

3. 2019 年度日本分類学会シンポジウムについて

富田実行委員長より, 北九州国際会議場にて, 12月14-15日に開催される予定であり, シンポジウム懇親会も小倉駅近くで行われる予定であることが報告された。

4. データ分析セミナーについて

山本幹事長より, 2018 年度データ分析セミナー「RでのWebスクレイピング」を2019年3月4日に, 日本分類学会・法政大学大学院 IM 総研共催セミナー「2019 Rによるマーケティングデータ分析」第1回を2019年3

月2日, 第2回を2019年3月9日に開催したことが報告された。

5. 和文誌について

吉野和文誌編集委員長より, 編集委員会で和文誌の投稿規定について, 論文の種別, 利益相反(COI)について追記するという修正を行ったことが報告された。

6. IFCS2017 について

出席予定であった今泉 IFCS-2017 組織委員会委員長欠席のため, 山本 IFCS-2017 実行委員会委員長より, post proceedings の状況などが報告された。

7. 学会事務局業務の委託について

栗原会長より, 3月15日に公益財団法人統計情報研究開発センターを訪問し, 日本分類学会の業務委託について相談し, 現在の郵便物の受取のみの業務だけでなく学会事務局としての業務について拡大する交渉を開始した旨, 報告された。

8. その他

水田渉外(国際学会活動)幹事より, ECDA2019(バイロイト大学, 2019年3月17-20日)への参加の報告があった。日本分類学会会員も多数出席していたこと, 日本人は2桁の出席者であったこと, 次回の ECDA2020 は, 2020年9月16-18日にナポリで開催されるとのアナウンスがあったことも報告された。

◆審議事項

1. 会員の入会・退会について

山本幹事長より, 会員の入退会およびシニア会員の種別変更などの説明があり, 承認された。

2. 学会賞・フェローについて

馬場学会賞選考委員会委員長より, 2019 年度学会賞およびフェローについて,

・貢献賞： 西里静彦 会員 (トロント大学名誉教授)

・論文賞： 荒井清佳 会員 (大学入試センター)

・奨励賞： 岡部格明 会員 (同志社大学大学院)

・フェロー： 岩坪秀一 会員 (大学入試センター名誉教授)

が選考されたと報告があり, 承認された。

また, 水田 2018 年度日本分類学会シンポジウム優秀学生発表賞選考委員会委員長より, 同シンポジウムで優秀学生発表賞内規に基づき, 12名の講演に対し, 3名の受賞者(後藤智紀(同志社大学), 山佳真子(同志社大

日本分類学会 平成 30 年度事業報告

平成 31 年 2 月 16 日

1. 第 37 回大会の開催

第 37 回大会を平成 30 年 6 月 9 日（土）～10 日（日）に統計数理研究所にて開催した（実行委員長：清水信夫氏（統計数理研究所），発表件数 14 件）。

2. 第 37 回総会の開催

第 37 回総会を第 37 回大会開催中の平成 30 年 6 月 9 日（土）に統計数理研究所にて開催した。

3. 日本分類学会シンポジウムの開催

日本分類学会シンポジウムを平成 30 年 11 月 24 日（土）～25 日（日）にて沖縄県青年会館（那覇市）にて開催した（実行委員長：山本義郎氏（東海大学），発表件数 25 件）。

4. セミナー開催

日本分類学会・法政大学大学院 IM 総研共催セミナー「2019 R によるマーケティングデータ分析」を平成 31 年 3 月 2 日（土）（第 1 回：ゼロからの R 入門（売上データを分析する））および平成 31 年 3 月 9 日（土）（第 2 回：購買履歴データの分析入門（レコマンと購買予測））に豊田裕貴氏（法政大学経営大学院）を中心に開催し、2018 年度データ分析セミナー「R での Web スクレイピング - オープンデータ，Web 情報の活用 -」を平成 31 年 3 月 4 日（月）に山本義郎氏（東海大学）を中心に開催した。

5. 運営委員会，幹事会の開催

(1) 第 12 回から第 18 回までの運営委員会を実施し，下記事項等を審議した。

- ・平成 29 年度事業報告・会計報告，平成 30 年度事業計画・予算案
- ・総会・大会・シンポジウムの開催
- ・運営委員会内規の修正および運営委員会を評議員会へと名称変更
- ・役員選挙
- ・学会賞・フェローの候補者の推薦および決定のスケジュール
- ・優秀学生発表賞内規および編集委員会委員長および委員の選出内規の修正
- ・学会賞内規，フェロー授与内規，優秀学生発表賞内規の改定
- ・統計関連学会連合大会の委員の選出
- ・入会手続
- ・入退会
- ・その他検討の必要な議題

(2) 第 5 回幹事会を実施し，下記事項等を審議した。

- ・平成 29 年度事業報告・会計報告，平成 30 年度事業計画・予算案
- ・総会・大会・シンポジウムの開催
- ・運営委員会内規の修正，運営委員会を評議員会へと名称変更
- ・優秀学生発表賞内規，編集委員会委員長および委員の選出内規の修正
- ・学会賞内規，フェロー授与内規，優秀学生発表賞内規の改定
- ・その他検討の必要な議題

6. 会報，ウェブページ，メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に，学会活動の告知および報告を会報（No. 37 を平成 31 年 3 月発行）およびウェブページにて発信を行った。加えて，速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し，適宜会員への情報提供を行った。

7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行，ADAC および JJSD の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に第7巻第1号の発行および第8巻第1号の編集を行った。また、ADAC（欧文ジャーナル）およびJJSD（連合欧文ジャーナル）への発行協力および投稿支援を行った。

8. 学会賞について

平成30年度の学会賞として、貢献賞を馬場康維氏（統計数理研究所）、論文賞を安藤宗治氏（東京理科大学）、田畑耕治氏（東京理科大学）、奨励賞を宇野光平氏（大阪大学）に授与した。

9. フェローについて

フェローの称号を鈴木 達三氏（統計数理研究所）に授与した。

10. 日本学術会議の活動

日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行った。

11. 次期役員選挙について

次期役員選挙を行った。

12. 学会事務の業務委託について

学会事務の業務委託について検討した。

13. 7th German Japanese Symposium on Classification

2018年に開催される7th German Japanese Symposium on Classification（7th GJSC 2018）（2018年7月1日～3日、ドルトムント）をドイツ分類学会と協力して開催した。

14. ECDA2018, ECDA2019

ECDA2018（2018年7月4日～6日、Paderborn）、ECDA2019（2019年3月18日～20日、Bayreuth）を共催団体として開催した。

15. COMPSTAT2018

COMPSTAT2018（2018年8月28日～31日、Iasi）でJCSセッション：Visualization of a high dimensional data matrixを今泉忠氏（多摩大学）を中心に開催した。

16. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2018年度統計関連学会連合大会の主催団体として同大会プログラム委員会および運営委員会へ委員を選出した。
- (2) 国際分類学会（IFCS）の一員として活動を行い、分担金の負担を行った。
- (3) IFCS傘下学会への協力を行った。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った。

単位:円

科目	予算額	決算	増減	備考
I. 収入の部				
1 入会金収入	20,000	20,000	0	2,000円×10人
2 会費収入	754,000	790,000	36,000	納入率68%
正会員	525,000	510,000	△ 15,000	5,000円×102人(納入率:65%)
シニア会員	9,000	12,000	3,000	3,000円×4人(納入率:67%)
学生会員	20,000	46,000	26,000	2,000円×23人(納入率:85%)
賛助会員	150,000	150,000	0	50,000円×3口(納入率:100%)
前年度以前分	50,000	65,000	15,000	
前受金	0	7,000	7,000	
3 論文誌関係収入	310,000	385,740	75,740	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売(郵送費含む)
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	180,000	180,000	0	100,000×1社+50,000×1社+30,000×1社(Vol7)
別刷代金	30,000	19,764	△ 10,236	別刷り(Vol.7)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	185,976	85,976	TeX化料金(Vol.7)、頁超過(Vol.7)立替分
4 雑収入	360,000	598,477	238,477	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	360,000	328,000	△ 32,000	2回分のみ
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	268,475	268,475	第37回大会、2018年度シンポジウム寄附
利子収入	0	2	2	銀行口座利子
IFCSセミナー費	-	0	0	
その他	0	2,000	2,000	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	選挙費用
A 当期収入合計	1,469,000	1,819,217	350,217	
B 前期繰越収支差額	2,062,189	2,062,189	0	
C 収入合計(A+B)	3,531,189	3,881,406	350,217	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	630,000	610,972	19,028	
和文誌	500,000	405,232	94,768	Vol.7, 送料含む
別刷代金	30,000	19,764	10,236	
論文誌関係雑支出	100,000	46,008	53,992	TeX化料金、カラー化料金
その他	0	139,968	△ 139,968	頁超過分
2 事業費	355,000	298,767	56,233	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	100,000	△ 50,000	次回大会分を支払い済み
セミナー運営補助費	70,000	82,160	△ 12,160	講師謝礼、資料印刷、wifi費用等
IFCSセミナー費	-	0	0	
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	0	5,000	
学会賞・フェロー経費	80,000	83,116	△ 3,116	学会賞表彰状経費、フェロー認定証経費、受賞者の花代・大会参加費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	50,000	33,491	16,509	
J-Stage学会誌公開費用	100,000	0	100,000	vol.1-6までのJ-Stageデータ作成料(依頼中)
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	1,656	45,344	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	0	45,000	
その他	2,000	1,656	344	
4 事務費	228,092	197,839	30,253	
業務委託費	50,432	50,432	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	35,977	△ 10,977	
ADAC事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,283	217	ドメイン移管費
会報印刷費	80,000	55,987	24,013	会報 No.37
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	52,160	52,160	0	前年度会計幹事代理の立替え
5 通信・郵送料	80,000	66,499	13,501	
会報等送料	50,000	38,185	11,815	
会費請求等連絡通信費	15,000	18,296	△ 3,296	会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	10,018	4,982	学会賞・フェローなどの書類郵送費等
6 負担金	20,216	20,216	0	
IFCS	0	0	0	昨年度支払済み
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	2018年分(振込手数料を含む)
7 積立	30,000	30,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	0	0	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,391,308	1,225,949	165,359	
E 当期収支差額(A-D)	77,692	593,268	△ 515,576	
F 次期繰越収支差額(C-D)	2,139,881	2,655,457	△ 515,576	
G 支出合計(D+F)	3,531,189	3,881,406	△ 350,217	

日本分類学会会則第10条に基づき、2018年4月1日より2019年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2019年6月6日
会計監事 渡辺 美智子 印

会計監事 林 文 印

(実際の決算報告書には自筆の署名と押印あり)

日本分類学会 2019 年度事業計画

2019 年 6 月 15 日

1. 第 38 回大会の開催

第 38 回大会を 2019 年 6 月 15 日～16 日に竹内光悦氏（実践女子大学）を実行委員長として実践女子大学（渋谷キャンパス）にて開催する。

2. 第 38 回総会の開催

第 38 回総会を第 38 回大会開催中に開催する。

3. 2019 年度日本分類学会シンポジウムの開催

日本分類学会シンポジウムを 2019 年 12 月 14 日～15 日に富田誠氏（横浜市立大学）を実行委員長として北九州国際会議場（北九州市）にて開催する。

4. セミナーの開催

2019 年度に数回データ分析セミナーを開催する。

5. 評議員会、幹事会の開催

(1) 評議員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

下記事項を検討課題とする。

- ・大会・シンポジウム
- ・総会の議題
- ・統計関連学会連合への対応
- ・IFCS, ECDA など共催する国際会議への対応
- ・他学会大会・シンポジウム等への協賛・後援
- ・その他検討の必要な議題

(2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。

下記事項を検討課題とする。

- ・大会・シンポジウム
- ・評議員会の議題
- ・その他検討の必要な議題

6. 会報、ウェブページ、メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を会報（No. 38, No. 39 を 2019 年度中に発行）およびウェブページにて発信する。加えて、速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し、適宜会員への情報提供を行う。

7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC（欧文ジャーナル）および JJSD（連合ジャーナル）の発行協力

日本分類学会編集委員会を中心に、第 8 巻第 1 号を発行し J-Stage へ登録する。また第 9 巻第 1 号の編集を行う。ADAC および JJSD への発行協力および投稿支援を行う。

8. 学会賞について

2019 年度の学会賞を授与する。2020 年度の学会賞の推薦・選考を行う。

9. フェローについて

フェローの候補者を検討し、ふさわしい会員にフェローの称号を授与する。

10. 日本学術会議の活動

日本学術会議の日本学術会議協力学術研究団体として活動を行う。

11. 学会事務の業務委託について

学会事務の業務委託の内容変更について検討し、実施する。

12. 学生会員入会キャンペーンについて

学生会員数の増加に向けて、学生会員の入会キャンペーンを実施する。

13. IFCS2019

IFCS2019 (2019年8月26日~29日, Thessaloniki, Greece) でJCSセッションを企画する。

14. 他学会との交流と協力

- (1) 統計関連学会連合の一員として活動を行い、2019年度統計関連学会連合大会を主催団体として開催し、同大会プログラム委員会および運営委員会を選出する。
- (2) 国際分類学会 (IFCS) の一員として活動を行い、分担金の負担を行う。
- (3) IFCS傘下学会への協力をを行う。
- (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行う。

単位: 円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	20,000	20,000	0	2,000 円×10 人として算出
2 会費収入	800,000	754,000	46,000	
正会員	550,000	525,000	25,000	5,000 円×(157人×0.7≒110人)として算出
シニア会員	12,000	9,000	3,000	3,000 円×(6人×0.7≒4 人)として算出
学生会員	38,000	20,000	18,000	2,000 円×(27人×0.7≒19 人)として算出
賛助会員	150,000	150,000	0	50,000 円×3 口として算出
前年度以前分	50,000	50,000	0	2018年度収入は65,000円
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	310,000	310,000	0	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	180,000	180,000	0	論文誌 Vol.8 の広告収入。実績より算出
別刷代金	30,000	30,000	0	別刷り(Vol.8)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	TeX化料金、カラー印刷代金(Vol.8)立替分
4 雑収入	350,000	360,000	△ 10,000	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	350,000	360,000	△ 10,000	データ分析セミナー、法政IM共催セミナー
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	IFCS負担金積立より繰入
A 当期収入合計	1,505,000	1,469,000	36,000	
B 前期繰越収支差額	2,655,457	2,062,189	593,268	
C 収入合計(A+B)	4,160,457	3,531,189	629,268	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	630,000	△ 40,000	
和文誌	500,000	500,000	0	Vol.8.送料を含む。送料値上げは見込んでいない
別刷代金	30,000	30,000	0	Vol.8
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	Vol.8
J-Stage登録作業費	40,000	-	△ 40,000	Vol.8. 1論文あたり5000円(税抜)
その他	0	0	0	
2 事業費	533,480	355,000	△ 178,480	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	50,000	△ 50,000	大会分は前年度支払い済み。シンポジウム分と次回大会分
セミナー運営補助費	100,000	70,000	△ 30,000	年2回で、講師謝礼、交通費・資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	学会パンフレット作成費
学会賞・フェロー経費	80,000	80,000	0	表彰状・フェロー認定証経費、花代、大会参加費、優秀学生発表費費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	0	50,000	50,000	今年度実施なし
J-Stage学会誌公開費用	168,480	100,000	△ 68,480	全てのバックナンバー公開作業費(見積もりより)
新入会員特典	80,000	0	△ 80,000	新規。学生会員20人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	47,000	0	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	45,000	0	実績より算出
その他	2,000	2,000	0	実績より算出
4 事務費	325,932	228,092	△ 97,840	
業務委託費	200,432	50,432	△ 150,000	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	25,000	25,000	0	実績より算出
ADAC 事務連絡費	2,000	2,000	0	該当者のみ発送。購読費は会費に上乗せ。実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	実績より算出
会報印刷費	80,000	80,000	0	会報 No.38, 39。実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	52,160	52,160	会計幹事代理の立替(2017年度分)
5 通信・郵送費	80,000	80,000	0	
会報等送料	50,000	50,000	0	会報 No.38, 39。学会からのお知らせ。実績より算出
会費請求等連絡通信費	15,000	15,000	0	会費請求に関する資料等の送付。実績より算出
その他	15,000	15,000	0	大会(総会)案内、他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	75,216	20,216	△ 55,000	
IFCS	55,000	0	△ 55,000	会費2年分US\$400と手数料。実績より算出
統計関連学会連合	20,216	20,216	0	2019年分。振込手数料を含む
7 積立	50,000	30,000	△ 20,000	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	0	△ 25,000	選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	0	25,000	25,000	IFCS 負担金支払いのための積立
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	-	△ 20,000	新規。日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,782,628	1,391,308	△ 391,320	
E 当期収支差額(A-D)	△ 277,628	77,692	355,320	
F 次期繰越収支差額(G-D)	2,377,829	2,139,881	△ 237,948	
G 支出合計(D+F)	4,160,457	3,531,189	△ 629,268	

学), 山本勇氣(大阪大学)を決定したことが報告された。

3. 平成30年度事業報告について

山本幹事長より, 平成30年度事業について, 年度が終わってはいないが, 報告書通りに終える予定であることが報告され, 承認された。

4. 平成30年度会計報告について

小田会計幹事より, 平成30年度会計について, 決算が終わってはいないが, 報告書通りに終える予定であることが報告され, 承認された。

5. 平成31年度事業計画について

山本幹事長より, 平成31年度事業について, 概ね例年通りの事業を計画していることが報告され, 承認された。また, 栗原会長より, 会員数増強の事項追加が提案され, 反映することとなった。

6. 平成31年度予算案について

小田会計幹事より, 平成31年度予算について, 概ね例年通りに計画している旨, 報告され, 承認された。また学会事務局業務委託について内容を拡大し追加することも提案され, 反映することとした。

・2019-20年度第1回評議員会

開催日時: 平成31年3月27日(水), 16:40-17:40

会場: 東京医科歯科大学 M&Dタワー 18階小会議室1

出席者: 栗原考次(会長, 岡山大学),
石岡文生(岡山大学), 小田牧子(防衛医科大学校),
富田 誠(東京医科歯科大学), 馬場康維(統計数理研究所),
水田正弘(北海道大学), 山本義郎(東海大学)

※会長以外は評議員

出席者および委任状提出者を合わせて19名となり, 定足数を満たすことが確認された。

◆報告事項

1. 役員選挙結果について

富田評議員より, 選挙管理委員(土田潤会員・山田実俊会員)によって1月24日に開票され, 栗原考次会長, 今泉忠監事, 林文監事が信任多数で選出され, 評議員も20名が選出されたことが報告された。なお, 既に会員に郵送にて結果を送付済であることも報告された。

2. 平成30年度事業報告について

(平成29-30年度運営委員会から2019-2020年度評議員会への引継ぎとして)山本評議員(平成29-30年度幹事長)より, 平成30年度事業について, 年度が終わってはいないが, 報告書通りに終える予定であることが報告された。

3. 平成30年度会計報告について

(平成29-30年度運営委員会から2019-2020年度評議員会への引継ぎとして)山本評議員(平成29-30年度幹事長)より, 平成30年度会計について, 決算が終わってはいないが, 報告書通りに終える予定であることが報告された。

4. 平成31年度事業計画について

(平成29-30年度運営委員会から2019-2020年度評議員会への引継ぎとして)山本評議員(平成29-30年度幹事長)より, 平成31年度事業について, 概ね例年通りの事業を計画していることが報告された。また, 栗原会長より会員数増強の事項追加が提案され, 反映することとなった。

5. 平成31年度予算案について

(平成29-30年度運営委員会から2019-2020年度評議員会への引継ぎとして)山本評議員(平成29-30年度幹事長)より, 平成31年度予算について, 概ね例年通りに計画している旨, 報告された。また, 現在, (公財)統計情報研究開発センターに委託している学会事務は郵便を預かってもらうだけのものであるが, 会員管理業務や各種発送業務等, 委託内容を追加することを検討しているとの報告があった。

◆審議事項

1. 幹事長の選出について

栗原会長より, 2019-2020年度幹事長として, 富田評議員が推薦され, 承認された。

2. 幹事について

富田幹事長より, 幹事会については現在のメンバーから大きく変えず, 多少の追加程度で調整するつもりである旨, 説明があった。続いて, 新幹事については, 本来, 評議員会で承認するものであるが, 新年度から幹事会が速やかに活動できるよう新幹事の承認はメール審議で行いたいとの提案があり, 了承された。

◆連絡事項

次の評議員会は大会前日の6月14日に開催する。

・2019-20年度第2回評議員会(ネット)

日時: 2019年4月7日(水)~17日(月) (メールによる審議)

◆審議事項

2019-2020年度の幹事会構成メンバーについて、原案の通り承認された。

- [会長] 栗原考次(岡山大学)
[幹事長] 富田 誠(横浜市立大学)
[庶務] 石岡文生(岡山大学), 久保田貴文(多摩大学), 山本義郎(東海大学)
[会計] 小田牧子(防衛医科大学校)
[広報] 横山 暁(青山学院大学)
[企画] 竹内光悦(実践女子大学), 豊田裕貴(法政大学), 林 邦好(聖路加国際大学)
[渉外] 佐藤美佳(筑波大学), 宿久 洋(同志社大学)
[渉外(国際学会活動)] 酒折文武(中央大学), 中山厚穂(首都大学東京), 水田正弘(北海道大学)
[ジャーナル] 吉野諒三(統計数理研究所), 大津起夫(大学入試センター)
[IFCS Executive Committee (Past President)] 岡太彬訓(多摩大学)
[IFCS Council] 栗原考次(岡山大学), 山本義郎(東海大学)

・2019-20年度第3回評議員会

開催日時: 2019年6月15日(土), 9:30-11:20

会 場 : 実践女子大学渋谷キャンパス創立120周年記念館1108研究室

出席者(敬称略, 会長以外は五十音順):

栗原考次(会長, 岡山大学), 足立浩平(大阪大学), 石岡文生(岡山大学), 大津起夫(大学入試センター), 岡太彬訓(立教大学), 小田牧子(防衛医科大学校), 久保田貴文(多摩大学), 清水信夫(統計数理研究所), 竹内光悦(実践女子大学), 富田 誠(横浜市立大学), 中山厚穂(首都大学東京), 馬場康維(統計数理研究所), 林 篤裕(名古屋工業大学), 水田正弘(北海道大学), 宿久 洋(同志社大学), 山本義郎(東海大学)

委任状提出:

狩野 裕(大阪大学), 佐藤美佳(筑波大学), 豊田裕貴(法政大学), 山口和範(立教大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 2019年度データ分析セミナーについて
山本庶務幹事より, 2019年度第1回データ分析セミナーについて, 「地理情報データの可視化」をテーマに5月18日に東海大学で開催した旨, 報告がなされた。(講師: 久保田貴文氏(多摩大学), 石岡文生氏(岡山大学)) 当日の参加者数は約30名で, そのほとんどが非会員であったため参加費収入が多かったこと, また, 当日に3名の新規入会があったことが報告された。

2. ECDA2019について

中山渉外(国際学会活動)幹事より, 2019年3月にドイツ・バイロイトで開催されたECDA2019について報告がなされた。水田渉外(国際学会活動)幹事より, 次回は2020年9月にイタリア・ナポリで開催される旨の報告がなされた。

3. 第38回大会について

竹内実行委員長より, 第38回大会のセッション数・講演数等の報告がなされた。また, 社会人学生は優秀学生発表賞の審査対象とならないことを改めて確認した。

4. 2019年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より, 2019年12月に福岡県北九州市で開催される2019年度日本分類学会シンポジウムについて, 会場・申込期限・懇親会などの準備状況について報告がなされた。栗原会長より, 本会のシンポジウムについて, 2017年までは統計関連学会連合大会の企画セッション内で開催していたが, 2018年度より学術的会合として開催している旨の説明がなされた。

5. 統計関連学会連合への委員の選出について

栗原会長より, 統計関連学会連合に関わる本学会からの選出委員として, 下記の4氏を推薦したことが報告された。

[事業委員会(欧文ジャーナル)]

中山厚穂(首都大学東京)

[JJSD Coordinating Editor]

大津起夫(大学入試センター)

[広報委員会]

横山 暁(青山学院大学)

[統計教育推進委員会]

渡辺美智子（慶應義塾大学）

6. 和文誌について

宿久和文誌編集委員会副委員長より、近日中に和文誌第8巻第1号が発行される旨の報告がなされ、その費用について、著者負担分・広告収入・送料等の説明がなされた。また、近日中に和文誌第7巻第1号がJ-STAGEに公開される旨の報告がなされた。

7. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より、平成31年3月27日以降の入退会希望者について、資料に基づき説明がなされ、審議の結果、入会と退会が承認された。

2. 各種内規の修正について

富田幹事長より、運営委員会を評議員会、運営委員を評議員と変更したことを受け、内規の改定案が提案され、審議の結果、原案の通り承認された。

学会賞内規：

第5条(3)：

運営委員会に提案し、運営委員会にて決定する
⇒ 評議員会に提案し、評議員会にて決定する
付則：

規定の制定改廃は、運営委員会で行う
⇒ 規定の制定改廃は、評議員会で行う

フェロー授与内規：

第5条(3)：

運営委員会に提案し、運営委員会での審議を経て
⇒ 評議員会に提案し、評議員会での審議を経て
付則：

規定の制定改廃は、運営委員会で行う
⇒ 規定の制定改廃は、評議員会で行う

優秀学生発表賞内規：

付則：規定の制定改廃は、運営委員会で行う
⇒ 規定の制定改廃は、評議員会で行う

編集委員会委員長および委員の選出内規：

第1条：

運営委員会の推薦に基づいて
⇒ 評議員会の推薦に基づいて

第2条：

運営委員会で承認する
⇒ 評議員会で承認する

第4条：

運営委員会での承認を得なければならない
⇒ 評議員会での承認を得なければならない

第5条：

運営委員会の承認に基づく
⇒ 評議員会の承認に基づく

第8条：

運営委員会の承認を得るものとする
⇒ 評議員会の承認を得るものとする

3. 平成30年度事業報告・会計報告について

久保田庶務幹事より、平成30年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。小田会計幹事より、平成30年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

決算報告書の支出項目の「ADAC事務連絡費」については、近年支出された実績がないため削除してはどうかとの指摘があり、継続審議となった。山本庶務幹事より、平成30年度の事業報告の内容および決算報告書については、3月27日に開催された運営委員会で一度承認されているが、会期が3月末で締めること、ならびに6月6日に会計監査が実施されたことから、改めて確認をお願いしている旨の説明がなされた。

審議の結果、本報告は、事業・会計報告とあわせて原案の通り承認された。

4. 2019年度事業計画について

石岡庶務幹事より、2019年度事業計画について、資料に基づき説明がなされた。また、会員増のための新たな試みとして、学生会員入会キャンペーンを実施する旨の提案がなされ、その概要について説明がなされた。審議の結果、幹事会で取りまとめた内容にて承認され、総会に上程することとなった。

5. 2019年度予算案について

小田会計幹事より、2019年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

6. 2020年度の大会、シンポジウムについて
富田幹事長より、第39回大会を東京で開催する方向で現在調整中であること、また、2020年度シンポジウムは地方都市(具体的な開催場所は未定)での開催を予定している旨の説明がなされ、審議の結果、承認された。

7. 2020年度の統計関連学会連合大会の企画セッションについて
富田幹事長より、今年度と同様に、2020年度の統計関連学会連合大会の企画セッションにおいて、日本分類学会シンポジウムは開催しない旨の提案がなされ、審議の結果、承認された。また、日本分類学会としてのセッションの企画について、執行部の方では予定していないが、もし評議員の方で企画セッション立案を予定している場合は、早めに報告頂きたいとの依頼がなされた。

8. 2020年度の学会賞のスケジュールについて
馬場学会賞選考委員会委員長より、2020年度の学会賞について、例年通りのスケジュールで実施する旨の説明がなされ、審議の結果、承認された。

9. 2019年度総会の次第について
石岡庶務幹事より、日本分類学会2019総会の議事について提案がなされ、原案の通り承認された。また、フェロー称号の授与が総会の審議事項になっているが、評議員会での審議事項としてはどうかとの意見があり、継続審議となった。

10. IFCS-2017・日独分類シンポジウムについて
山本庶務幹事より、IFCS-2017の最終参加者数・会計の現状報告・Post-Proceeding出版スケジュール、ならびに、日独分類シンポジウム成果(第5,6,7回)の出版スケジュールについて、資料に基づき説明がなされた。会計報告については、現在IFCS-2017会計担当で最終整理の段階にあることが報告された。

Post-Proceedings出版については、2020年3月31日までに出版予定であることが報告された。

IFCS-2017の決算報告、Post-Proceedings出版、日独分類シンポジウム成果の出版が大幅に遅れていることを受け、担当者の追加ならびに担当者間の情報共有を徹底する旨の報告がなされた。IFCS-2017の最終収支が黒字となった場合には、IFCSに対する基金(仮称)の

名目で日本分類学会に寄付することが提案され、承認された。

11. その他
久保田庶務幹事より、新規会入会キャンペーン(和文誌バックナンバーの送付)について、Vol.1~Vol.8の厚みの影響で送付方法を変更する必要がある旨の説明がなされた。それを受け、送料をこれまで通り会員負担とするか、学会負担に変更するかについて検討がなされ、継続審議となった。

本会の会計監事について、2019年度より業務監査および会計監査を行う監事に変更したことを受け、今後は監事にも評議員会に出席を依頼して会務を監査頂くこと、ならびに、業務監査報告および会計監査報告を行うことを確認した。

・2019-20年度第4回評議員会(ネット)

開催日時：2019年9月17日(火)~27日(金) (メールによる審議)

◆審議事項

1. 新規入会について
1名の正会員、および1名の学生会員の新規入会について、原案の通り承認された。(評議員20名のうち回答者数19名、未回答者数1名。回答者数19名のうち、賛成者数19名)

○幹事会議事録

日本分類学会 2019-20年度 第1回幹事会 議事録

開催日時：2019年6月14日(金)、18:40-20:40
会場：岡山大学東京オフィス(キャンパス・イノベーションセンター東京) 508号室

出席者(敬称略、会長・幹事長・監事以外は五十音順)：
栗原考次(会長、岡山大学)、
富田 誠(幹事長、横浜市立大学)、
今泉 忠(監事、IFCS-2017組織委員長、多摩大学)
石岡文生(岡山大学)、大津起夫(大学入試センター)、
豊田裕貴(法政大学)、林 邦好(聖路加国際大学)、
水田正弘(北海道大学)、宿久 洋(同志社大学)、
山本義郎(東海大学)

◆報告事項

1. 平成30年度事業報告・会計報告について
山本庶務幹事より、平成30年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、平成30年度会計報告について、資料に基づき説明がなされ、決算報告書の内容について

2019年6月6日に会計監査が実施された旨の報告がなされた。

2. 2019年度シンポジウムについて

富田幹事長(同シンポジウム実行委員長)より、2019年12月に福岡県北九州市で開催される2019年度日本分類学会シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

3. 広報委員会について

富田幹事長より、今年度の広報委員会の委員および予定している広報活動について説明がなされた。

4. 和文誌について

宿久和文誌編集委員会副委員長より、近日中に和文誌第8巻第1号が発行される旨の報告がなされ、その出版費用について説明がなされた。また、近日中に和文誌第7巻第1号がJ-STAGEに公開される旨の報告がなされた。

5. その他

なし

◆審議事項

1. 各種内規の修正について

富田幹事長より、運営委員会を評議員会、運営委員を評議員と変更したことを受け、内規の改定案が提案された。審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

2. 2019年度データ分析セミナーについて

山本庶務幹事より、2019年度第1回データ分析セミナー(2019年5月18日、東海大学)について、参加者数や当日の様子等の報告がなされた。また、第2回のデータ分析セミナーを今年度中に開催するとの提案がなされ、審議の結果、承認された。(第2回セミナーの内容については現在検討中)

3. 2019年度事業計画について

石岡庶務幹事より、2019年度事業計画について、資料に基づき説明がなされた。また、会員増のための新たな試みとして、学生会員入会キャンペーンを実施する旨の提案がなされ、その概要について説明がなされた。審議の結果、2019年度事業計画の文言の一部修正、ならびに学生会員入会キャンペーンの実施要項案について加筆・修正した上で、評議員会に上程することとなった。

4. 2019年度予算案について

富田幹事長より、2019年度予算案について、資料に基づき説明がなされ、審議の結果、原案の通り承認され、評議員会に上程することとなった。

5. 2020年度の大会、シンポジウムについて

富田幹事長より、第39回大会を東京で開催する方向で現在調整中であること、また、2020年度シンポジウムは地方都市(具体的な開催場所は未定)での開催を予定している旨の説明がなされ、審議の結果、承認され、評議員会に上程することとなった。

6. 2020年度の統計関連学会連合大会の企画セッションについて

富田幹事長より、今年度と同様に、2020年度の統計関連学会連合大会の企画セッションにおいて、日本分類学会シンポジウムは開催しない旨の提案がなされ、審議の結果、承認され、評議員会に上程することとなった。また、日本分類学会としてのセッションの企画について、執行部の方では予定していないが、もし幹事の方で企画セッション立案を予定している場合は、早めに報告頂きたいとの依頼がなされた。

7. 2020年度の学会賞のスケジュールについて

富田幹事長より、2020年度の学会賞について、6月15日(土)の総会終了後から、馬場学会賞選考委員会委員長と調整の上、準備を始める旨の提案があり、審議の結果、承認され、評議員会に上程することとなった。

8. IFCS-2017・日独分類シンポジウムについて

今泉IFCS-2017組織委員長より、IFCS-2017の会計報告・Post-Proceeding出版、ならびに日独分類シンポジウム成果(第5,6,7回)の出版が大幅に遅れていることから、その対応状況について報告がなされた。本件はIFCS-2017LOC管轄の案件であるが、早急な会計報告、および出版の大幅な遅延に対する善後策について、幹事を含めて意見交換を行った。(※注)

9. その他

なし

(※注 議論の内容)

会計報告については、現在IFCS-2017会計担当で最終整理の段階にあり、今後のプロセスとして、IFCS-2017LOCでの確認、IFCS-2017会計監事および公認会計士によるチェックの後、IFCS Finance Committeeへ提出することが報告された。

Post-Proceedings 出版については、2 件の Major Revision に対する再査読が残っているが、2020 年 3 月 31 日までに出版予定であることを確認した。また、日独分類シンポジウム成果出版について、出版費用は参加費から捻出すること、ならびに論文投稿締切は 2019 年 8 月 31 日とすることを確認した。

事務局から

● 学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2018 年に第 7 号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007 年より Springer 社から刊行しております(年間 3 冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 ○一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

● 学生会員入会キャンペーンについて

会員数増加推進の一環として、学生会員入会キャンペーンを実施します。

2019 年度に学生会員として新規入会された方は、入会後から 1 年間の間に本会が開催する学術的会合(大会・シンポジウム)の参加費が 1 回に限り無料になります。

会員の皆様の近隣で入会について興味のある方がいらっしゃいましたら、是非入会をお勧めください。

■ 編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉やその号限定の記事なども盛り込み、年 2 回発行していく予定です。また、メールニュースや Facebook 等でも情報発信をしております。メールニュースでは大会・セミナー開催に関する速報性の高いお知らせを、Facebook では大会・セミナーの雰囲気や周辺情報等を写真を交えて発信しております。Facebook は非会員でも見られます。共有がまだの方は是非共有して頂き、非会員の方々へもご紹介頂ければ幸いです。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事 横山暁(青山学院大学)

広報委員 阿部寛康(京都大学)、谷岡健資(和歌山県立医科大学)、山田実俊(東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>